

背景と論点

教員メンタープログラムは、大学において一定の職務経験をもつ教員と交流することで、新任教員が大学教員として成長していくことを支援するものです。このプログラムでは、新任教員をメンティ教員、そのメンティ教員を支援する教員をメンター教員と呼びます。メンター教員による支援の内容や方法は、メンティ教員との工夫次第で決まっています。メンティ教員の積極的な姿勢がメンター活動を有意義なものにします。新任教員には、職務の内容だけでなく、今後のキャリア形成や仕事と結婚・出産・育児・介護といったライフイベントとの両立など、不安なことがたくさんあるものです。プログラムの活用を機会として、自分の教育研究を振り返りつつ、将来像を描いていきましょう。

また、教員メンタープログラムは、学内でのネットワークづくりの第一歩となります。これを手がかりにして様々な教職員と交流を深めていくことができれば、今後の教員生活はより有意義なものとなるでしょう。

実践の手法

1. 教員メンタープログラムを理解する

- ・ このプログラムは、メンティ教員が大学教員として発達することを支援するものである
- ・ 活動の内容・方法はメンター教員とのミーティングを通じて決定される
- ・ メンター教員は指導する立場ではなく、対話や助言を通してメンティ教員をキャリア的、心理・社会的に支援するものである
- ・ 話しにくいことは無理に話さなくてもよい
- ・ 活動の中で知り得たメンター教員の個人情報を口外してはいけない
- ・ メンター教員との関係に困ったときは、プログラム事務局に相談できる

2. 自分自身に問いかける

- ・ 今の自分が達成すべき課題は何か
- ・ 今の自分にとって必要な情報とは何か
- ・ 必要な情報の入手方法を知っているか
- ・ 将来的な自己イメージを持っているか
- ・ メンター教員からどのような点について支援を受けたいのか
- ・ メンター教員に自分の思いを伝えようと思っているか
- ・ メンター教員からのフィードバックに耳を傾けられるか

3. 初回のミーティングに臨む

- ・ メンター活動の内容について自分から提案する
【例】「○○について相談したいのですが」「○○について支援が受けられますか」
- ・ 学内の組織や教員の職務などについての疑問を積極的に質問する
- ・ 悩みや課題について、メンター教員を信頼して話す
- ・ 任期の有無や現在の立場など、自分の置かれている実情をありのままに伝える
- ・ 自分の必要性を考えながら、次回以降のミーティングの予定を立てる
- ・ 活動の目標地点を設定する

4. メンター教員からのアドバイスを聞く

- ・自分が知りたいことについて率直に尋ねる
【例】「大学教員として重要だったのはどのような経験ですか」
「新任教員のとき困ったのはどのようなことですか」
「仕事と子育ての両立はどのようにしましたか」
- ・大学教員としての生活のために必要な情報を得る
【例】「研究費助成に採択されるには何が必要ですか」
「○○について、他にどんな本を読んだらいいですか」
「○○について他に詳しい方はどなたですか」
- ・授業について尋ねる
【例】「どのような資料を使っていますか」
「課題はどのように出していますか」
「授業ではどんなことを心がけていますか」
- ・学会誌の審査、研究費助成の審査、書籍の出版などの経験を聞く
- ・アドバイスを受けて活動した結果について、メンター教員にフィードバックを伝える

5. 教職員間のネットワークをつくる

- ・他のメンティ教員とそれぞれの悩みや解決方法を共有する
- ・同じ学部学科の教員に学生の様子を聞く
- ・研究費の処理方法について職員に尋ねる
- ・他学部学科の教員と話し、分野ごとの研究方法や授業の仕方の違いを知る
- ・図書館職員に学生の利用状況について尋ねる
- ・大学教員生活の中での印象的な出来事についてベテラン教員に聞く
- ・他大学の教職員と大学や学生の違いについて話す

6. 自立した教員として歩む

- ・目的に応じたメンター教員を学内外につくる
- ・今後の教育・研究生活の計画を立てる
- ・子育てや介護といったライフイベントの将来的な見通しを立てる
- ・教員メンタープログラム発展のための提案をする
- ・メンター教員の考え方を理解する
- ・メンター教員との間に同僚としての新たな関係を築く
- ・自分がメンター教員になる